

海の安全レポート

第七管区海上保安本部
海の安全推進室
TEL093-331-6395(交通部安全対策課)

第187号 令和4年10月号



BACKNUMBER (二次元コードは右側をご利用ください。)

https://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/gyoumu/kyunan/marine_zen_report/

ちょっとした確認不足で運航不能事故が発生しました

【事件事例1】

プレジャーボートA丸船長は、船釣りを終え帰港中のところ、燃料欠乏によりエンジンが停止し運航不能となった。船長は携帯電話等連絡手段を所持していなかったことから救助を呼ぶことが出来ず漂流を続け、事故発生の日、A丸は捜索中の巡視艇から救助された。船長は出港時、釣り場が10分と近いことから、『燃料の確認をしなくても大丈夫、燃料はもつだろう』と過信し燃料タンクの残量を確認せず出港したものの。

【チェックポイント】

- 燃料油量の確認

☞ 燃料タンクの油量は十分ありますか？

出港前には必ず燃料油量を確認しましょう。また、気象海象の状況によっては予想以上に燃料消費量が増加することがあるので、十分な燃料を積んでおきましょう。



事故者は携帯電話等連絡手段を所持していなかったことから、事故発生時救助を呼ぶことが出来ず、救助が遅れる結果となりました。携帯電話等を実際に所持し、家族や第三者に行き先や帰宅時間を予め伝えておきましょう。

【事件事例2】

プレジャーボートB丸船長は船釣りのため目的地向け航行していたところ、エンジンの回転数が不安定となり、エンジンが止まる状況が続いたことから、118番通報による救助要請を行った。救助後B丸の燃料タンク区画を確認したところ、同区画の船底に海水混じりの燃料が深さ約15センチメートル溜まっており、事故原因は燃料タンク又は燃料配管が腐食し、燃料が流出したことによる燃料欠乏であると推定される。

【チェックポイント】

- ビルジ量の確認

☞ ビルジが溜まっていませんか？

機関室や船底には海水、オイル等のビルジ（油水混合物）が溜まることがあります。機関室や船底を確認してビルジ量が増加していることをすぐに確認出来るようにしましょう。浸水、漏油等の早期発見につながります。

船底に溜まった
海水混じりの燃料



ビルジ量確認の他に、燃料タンク、燃料配管を確認して漏油がないか確認しましょう。漏油により、燃料欠乏、火災、爆発などの恐れがあります。

次項ではその他燃料系統チェックポイントを紹介します。

その他燃料系統チェックポイント（発航前検査）

【チェックポイント】

- 燃料ホースの確認（船外機）

☞ 燃料ホースが正しく取り付けられていますか？
燃料ホースの接続部の点検、プライミングポンプの矢印の向きを確認して取り付けましょう。

☞ 燃料系統に空気が混入していませんか？
空気混入によりエンジンが停止することがあります。
空気抜きプラグを緩め気泡が出るまでプライミングポンプを押し、空気を抜きましょう。

燃料タンク側

船外機側



【チェックポイント】

- 燃料タンクの空気抜き（船外機）

☞ 使用時には燃料タンクの空気抜きバルブ「開」を確認していますか？

空気抜きを開けずに使用を続けると燃料がエンジンに供給されなくなります。空気抜きバルブが開いていることを確認しましょう。



【チェックポイント】

- 燃料フィルターの確認（全機関）

☞ 燃料フィルターに目詰まりはないですか？
目詰まりにより燃料が流れなくなるとエンジンが停止します。フィルターを定期的に交換しましょう。



【チェックポイント】

- 燃料油水分離器の確認（船内機、船内外機）

☞ 燃料油水分離器に水が溜まっていませんか？
燃料に水が混ざるとエンジンがかからなくなることがあります。分離器下部のプラグを緩めて水分を排出しましょう。



※上記例で挙げた点検項目は船によって方法が変わるので、詳しくは取扱説明書を確認してください。また、整備作業に不安を感じた場合や困難な場合は**整備業者**に相談しましょう。

海上でエンジンが使えなくなると操船が出来なくなり、風や波の影響により転覆、乗揚などの海難を引き起こす可能性があるため、日頃から点検、整備をすることが大変重要です。

二次元コードを読み取った先のページでは海上でのトラブルシューティングや事故を防ぐチェックポイント等を紹介しています。是非ご覧ください！

二次元コードはこちら→

